

ジンバブエ経済（経済情報の週間とりまとめ：4月第1週目）

- 1 トランプ米大統領の相互関税によりジンバブエの対米輸出に18%の関税
- 2 政府がインフラ建設等の請負業者に数百万米ドルの負債
- 3 製造業は2024年第4四半期に停滞
- 4 ムナンガグワ大統領が米国製品への関税の停止を表明
- 5 インフラ開発銀行によるザンビア・モザンビークとの国境地域カニエンバの活性化
- 6 ジンバブエのコーヒー生産が増加傾向

1 トランプ米大統領の相互関税によりジンバブエの対米輸出に18%の関税

トランプ米大統領が新たに発表した「相互関税」により、ジンバブエ製品は少なくとも18%の関税に直面することになる。この措置は世界的な貿易摩擦を激化させ、経済への影響への懸念を引き起こしている。ジンバブエにとって、今回の関税は米国との貿易関係に変化をもたらすものだ。ただし、両国の貿易量はごくわずかである。米国の貿易データによると、2024年のジンバブエの対米輸出額はわずか6,780万米ドルだった。対米主要輸出品は、砂糖、タバコ、鉄合金などである。（4日付ニュースデイ紙1面）

2 政府はインフラ建設等の請負業者に数百万米ドルの負債

政府は深刻な資金難により、道路改修工事を含む様々なプロジェクトの請負業者への支払いに苦戦している。ヌーベ財務・経済開発・投資促進大臣は国会で議員らに対し、訴訟や罰金を回避するため、請負業者に対し滞納金の支払い計画の策定を要請したと述べた。政府はさまざまな請負業者に数百万米ドルの負債を抱えている。請負業者の中には、支払いの遅れに不満を抱き、プロジェクトの現場から立ち去った者もいる。（4日付ニュースデイ紙2面）

3 製造業は2024年第4四半期に停滞

ジンバブエ国立統計局（ZimStat）が実施した2024年第4四半期の製造業・鉱業セクター景況感調査によると、製造業信頼感指数（Manufacturing Confidence Index）は第3四半期の2.1から-4.6に低下した。これは同時期の成長停滞を示している。ZimStatは、「製造業と鉱業の両部門の回答者が挙げた生産上の3つの主要な制約は、キャッシュフローの問題、電力不足、そして経済環境の不確実性だった」と述べた。設備稼働率は、大手製造業と中小企業でそれぞれ57.9%、46.2%で、製造業全体の設備稼働率は47.9%だった（前四半期の47.1%から上昇）。なお、製造業の回答者の27%が2025年第1四半期の生産量の増加を予想し、64.7%は価格が横ばいになると予想している。（4日付ニュースデイ紙ビジネス1面）

4 ムナンガグワ大統領が米国製品への関税の停止を表明

5日、ムナンガグワ大統領は、米国からの輸入品に対する関税を全面的に停止すると発表した。大統領は自身の公式Xアカウントでこの決定を発表し、「トランプ大統領率いる米国との互恵的で前向きな関係を構築するという精神に基づき、私はジンバブエ政府

に対し、米国産品に課されているすべての関税の停止を実施するよう指示する。この措置は、公平な貿易の枠組みと二国間協力の強化に対する我々のコミットメントを強調するものだ」と述べた。また、米国製品への関税停止が対話を促進し、緊張を高めるのではなく、貿易に関して建設的な関与を行うジンバブエの姿勢を示すことを期待していると述べた。(6 日付サンデーメール紙 1 面)

(論説) ムナンガグワ大統領のトランプ関税への反応は近隣諸国への裏切り
ジンバブエは米国からの輸入量が少ないため、関税撤廃は大統領の単なるパフォーマンスに過ぎなかった可能性がある。おそらく、ジンバブエが関税を撤廃すれば、米国は提案している新たな関税を課さないだろうという思惑があったのだろう。残念ながら、明らかに正気を失ったトランプ米政権には通用せず、関税撤廃は称賛されるどころか、嘲笑的となった。

ムナンガグワ大統領の決定は性急で独断的だ。同大統領は SADC 議長であり、その行動は SADC 地域の貿易に関する方針に従うべきである。SADC 貿易議定書では、加盟国は第三国との関係において、最大限の努力を払って貿易政策と交渉上の立場を調整するものと規定されている。現段階では、SADC がトランプ米大統領の関税措置に対し、国ごとではなく地域全体にとって有益な共通の立場を形成することが期待される。ムナンガグワ SADC 議長が米国製品への関税撤廃を発表した際、レソトの首相は裏切られたと感じただろう。南アフリカの気持ちも想像できる。南アフリカはトランプ政権による不当な攻撃の犠牲者であり、地域の結束を期待していたはずだ。彼らが裏切られたと感じているのは、西側諸国によるジンバブエへの制裁に対して、彼らは共に立ち上がったからだ。ムナンガグワ大統領は「反制裁デー」を発案し、SADC 加盟国もこれを支持した。SADC の多くの指導者たちは、機会あるごとに制裁に反対する声をあげ、我々と連帯を示してくれた。残念なことに、ジンバブエはそれほど寛容ではないようだ。(13 日付スタンダード紙 10 面)

5 インフラ開発銀行によるザンビア・モザンビークとの国境地域カニエンバの活性化

ジンバブエ・インフラ開発銀行 (IDBZ) は、カニエンバ (Kanyemba) ・ザンベジ・ロジ・プロジェクトのフェーズ 1 と 2 を完了した。これは、ジンバブエのマシヨナランド・セントラル州最北端にある国境の町、カニエンバの開発における重要な節目となる。カニエンバ回廊はハラレを起点とし、ザンビア、ジンバブエ、モザンビークの国境の合流地点で終わる。ここでは、ザンベジ川とルアングワ川が合流し、3 カ国を結ぶ。商業、貿易、観光の面で計り知れない可能性を秘めており、スマートシティとして開発する計画が進行中だ。3 カ国はまた、ザンベジ川とルアングワ川の合流点に Y 字橋を建設する計画も立てている。橋の建設により、南北回廊の移動距離が約 650 キロメートル短縮される。IDBZ は、政府からの資本注入支援を継続的に受けており、2025 年度の国家予算では、IDBZ に資本増強のために 1 億 5,000 万 ZiG が割り当てられた。全長 15km、総面積 3,000ha のカニエンバ国境地域は、開発が進めばバイトブリッジ、チルンドゥ、プラムツリー国境検問所のような重要な経済拠点となる可能性を秘めている。(6 日付サンデーメール紙ビジネス 1 面)

6 ジンバブエのコーヒー生産が増加傾向

歴史的に、ジンバブエはアフリカのコーヒー生産の主要国であったが、気候変動、経済問題、市場動向の変化によりコーヒー産業は打撃を受けた。しかし、最近の傾向は、政府と民間部門の関心が高まり、コーヒー栽培が再び収益性の高い事業になりつつあることを示している。国内では、ジンバブエのコーヒー生産量は徐々に増加しており、最新データによると、2023/2024 年シーズンの生産量は前シーズンの 681 トンから 15% 増加して約 780 トンに達した。栽培面積も拡大し、小規模農家もこの分野に参入するようになった。開発機関とのパートナーシップにより策定された「Zimbabwe Coffee Sector Road Map 2030」は、2030 年までに年間生産量を 5,000 トンに増やすことを目指している。

この分野は将来性が見込まれるものの、資金調達の制限、投入コストの高さ、外貨保留政策などの課題が農家にとって依然として障害となっている。しかし、ネスプレッソ・テクノサーブ・イニシアチブなどのプログラムや、ジンバブエ・コーヒー生産者協会（CGAZ）などの組織からの支援により、農家に技術支援、投入支援、市場へのアクセスが提供され、ジンバブエのコーヒー産業はすでに活性化している。コーヒー農家向けの信用制度の構築に向けて、政府と金融機関の間で協議も行われている。（6 日付サンデーメール紙ビジネス 6 面）